

SAN-Ai

社会医療法人 三愛会 広報誌「さんあい」

Vol.29



ひとに笑顔を ちいさに“愛”を
社会医療法人 三愛会



01 医療法人社団三愛会初代理事長 安東有二郎
02 旧三愛病院、1970年設立
03 2006年以前の病院建設予定地
04 長年続いている、早朝のドクターミーティング
05 地域貢献事業 春の健康まつり
06 東日本大震災の救援からの帰院
07 内視鏡室での検査・治療風景
08 介護施設で訪問診療を行う医師
09 2015年、半澤一邦から三島康典に理事長交代
10 のはる診療所デイケア
11 脳神経外科医による脳血管内治療の様子
12 循環器内科医による心臓カテーテル手術
13 新卒看護師の研修の様子
14 訪問リハビリをするケアセンタースタッフ
15 コロナ禍での救急診療
16 コロナ対応を行う看護師たち



全事業所を合わせた職員の総数は800人近くにのぼる。さまざまな分野の専門集団で組織体制を盤石なものとし、地域の医療介護を担っている。10数年前と比較しても、法人内の常勤医師数は倍程度に増加している。



植田から野津原、庄内地域にかけ、医療介護機関を12カ所展開。病院・診療所・介護施設・訪問看護・訪問介護・居宅事業など、あらゆる分野で地域の健康をサポートし続けている。



大分三愛メディカルセンターは2次救急病院。日々の救急車やドクターカー活動、大分DMAT活動、さらにコロナ関連の救急患者を積極的に受け入れたことで、昨年ついに、ひとつの目標である2,000件を大きく超えた。さらに“断らない医療”をめざしている。



未知のウイルスであった新型コロナ。2020年3月の流行初期から多くのコロナ入院患者を受け入れた。また、発熱外来やワチン接種なども積極的に行い、その数は県内医療機関内でも非常に多い。



大分三愛メディカルセンターでは、外科・整形外科・脳神経外科などの外科的治療のほか、心臓カテーテルや内視鏡を用いた治療などを幅広く行っている。最近では泌尿器科手術を積極的に行っている。

※数字は手術を行った症例データの件数



大分三愛メディカルセンター・消化器病・内視鏡センターでの内視鏡検査・治療数は年々増加。健診センターとの連携により、胃カメラ・大腸カメラを安心かつ迅速に受けられるよう環境を整備している。



「三愛病院」から始まる法人設立は53年目となるが、前身の安東有次郎診療所は1948年に開設。長い間、植田近隣地域の医療を担ってきており、現在では介護・訪問など、多岐にわたるニーズに応えている。



2016年に三愛総合健診センターを開設。治療のみではなく「健診・検診」領域を強化し、疾患の早期発見・早期治療をめざす。健診センターは、男女別エリアや最新治療機器などの設備も充実し、好評を得ている。

大分三愛メディカルセンターをはじめとする社会医療法人三愛会は、黎明期からこれまでの49年間に、コロナ禍の3年間を経て、左記に示すような数字を積み重ねてきた。
少子超高齢化、2025年問題、8050問題、地域包括ケアに向けたさまざまな課題と理想を見据えながら、三愛会は次の時代へのステップを踏もうとしている。

今回、業界ではよく言葉にされる「地域包括ケア」の真髄を見出す。ひとつ企画についてピックアップする。

三愛の「数字」

子ども・子育て世代への目線を。

子ども・子育て世代への目線を。



20~40代を子育て世代とした場合、その割合は約7割にもおよぶ。

「小1の壁」の原因と対策

小1の壁とは…子どもが小学校に通い始めたとき、保育園に預けていたときにはできていた仕事と子育ての両立が難しくなることを指す言葉。

小1の壁が起こる原因

- 01 小学校に上がると、預けられる時間が保育園のときより2~4時間短くなる。
- 02 放課後児童クラブの約4割は18時30分までしか開所していない。

小1の壁を乗り越えるための方法

- 仕事の仕方を見直す。
在宅勤務を選択する。不要な残業はやめる。
- 学童を知る＆地域サービスを活用する。
地域にどんな学童があるのかを確認する。アドバイスを利用する。
- 家族や地域のママ友パパ友とコミュニケーションをとる。
夫婦や親子で相談してみる。ママ友パパ友と連携する。

子の面倒といえども保育園。しかし内部アンケートでは、院内保育園の需要は少ない。より深刻な「小1の壁(上図参照)」があるからだ。実際に「小学校に上がる」と子どもの見守りが都合よくいかず、仕事と両立できない」という理由で退職する女性職員は多い。男性の子育て参画の問題もあるが、まずはどの業界でも起っている社会問題を、三愛会なりに解決することにした。育成クラブなどの学童で補填できない部分を網羅した学童を設立し、親世代、特に女性の悩みを解決消させる。「仕事を済ませて急いでお迎え」「家族の夕食の準備・家事」「子どもの宿題チエック」などを手に担う親は深夜まで激務だ。それらをすべて解消できないか? 「送迎付き」「夕食付き」「宿題確認」を引き受け、高齢者企業など、「地域との関わり」を大切にする学童。医療・介護機関だからこそ、そのノウハウは創造できると考えている。

「地域で支える」学童保育を構想中。

子どもの面倒といえども保育園。しかし内部アンケートでは、院内保育園の需要は少ない。より深刻な「小1の壁(上図参照)」があるからだ。実際に「小学校に上がる」と子どもの見守りが都合よくいかず、仕事と両立できない」という理由で退職する女性職員は多い。男性の子育て参画の問題もあるが、まずはどの業界でも起っている社会問題を、三愛会なりに解決するこ



高齢化が進み続ける日本。団塊の世代が75歳以上となる2025年以降は、国民の医療や介護の需要がさらに増加する。このため、「重度な要介護状態となつても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最期まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される」ための地域の包括的な支援サービス提供体制の構築が国をあげて推進されている。これがいわゆる「地域包括ケアシステム」といわれるものだ。

このため、「重度な要介護状態となつても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最期まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される」ための地域の包括的な支援サービス提供体制の構築が国をあげて推進されている。これがいわゆる「地域包括ケアシステム」といわれるものだ。

現 在、医療機関に限らず、すべての業種で人手不足が深刻なものとなっているが、その対策を講じていく中で、「子育て世代」の働き手の声に注視するようになってきた。当然ながら、看護師スタッフの大半は女性が占めている。子育て世代、特に「母親」が安心して働ける環境。女性が多い業界である看護・介護の世界において、この視点は外せない。そして、我々がこれまで培ってきた「地域の高齢者」の健康を支えるノウハウ。これらを組み合わせて、ひとつ理想を求める動きがある。法人内での学童保育の設立だ。それも、専門業者に委託するだけのもではなく、地域のさまざまなス

社会医療法人三愛会でも、複数の医療介護機関を擁しており（前ページ参照）、その「翼」を担つて、小児科や産科などがない病院として、「子ども」世代に対する関わりのイメージが薄かったことは否めない。

これを、行政任せにするのではなく、地域の各機関が、地域特性に応じてつくり上げていくことが肝要とされる。

三愛会の職員 年代割合

20~40代	69%
50代	14.6%
60代	12.9%
70代	2.1%
10代	0.4%

協働する「地域」のひと・企業（トライアルでご協力いただいた方々）

ドミノピザ 大分宗方店

～日々、地域貢献になることを～



ドミノピザは2021年、全国で「コロナ禍で頑張る人・企業へエールを」とピザを無償配布するキャンペーンを行ったこともある。今回、子どもたちを食で笑顔に、という点で協賛いただき、子どもが大好きなピザを配達いただいた。

すまいるママ

～地域で「働く」人たちのお弁当を担う～



大分三愛メディカルセンターの職員もよく注文する配達弁当。大分市田尻に住む荒木ママの料理は、「お母さんの手づくり家庭料理」として地域で大人気。外国でボランティア活動を行っていたこともあり、子どもたちの「食の健康」にはこだわりを持っている。

アンビシャス国際美容専門学校

～子どもにも「美」の楽しさを～



2003年に開校し、毎年多くの美容関係者を世に送り出している専門学校。毎年秋には、トキハワさだタウンでヘアメイクショーや美容に関するイベントなども行っている。今回のトライアルでは、子どもたちと一緒に「お母さんへのプレゼント・リップづくり」を行ってくれた。

&タクシーグループ

～自社でも保育所設立。女性の活躍を～



ハーネス・トキハ・のつはる・ふたばの4社協業でタクシー配車を行う。特にハーネスタクシーは女性ドライバーの働きやすさを追求し、自社内に保育所も設置している。今回の送迎実験では、女性ドライバーが優しく誘導・送迎。子どもたちも安心して乗車していた。

このほか、今回のトライアルでは「NPO法人 OMAP(絵本の読み聞かせ・ピアノ演奏・工作)」「coco壹番屋田尻店(カレーライスの配達)」「鳥や(弁当配達)」「キッチンカーFood Truck TC BUZZ(昼食調理)」など、多くの企業にご協力をいただきました。



2023年8月、学童保育トライアル実施



想を進め、学童設立を進めているが、本当に実現可能かは慎重さを要する。始まったならば途中で「やはり無理でした」と匙を投げるわけにはいかないため、運営計画は綿密に構築中。予算や運営の仕組みはもちろんだが、相手はモノではなく人、まして多感な子どもたちだ。後々の記憶にはあまり残らなかつたとしても、「心の拠り所」になつていかなけばならない。

8月22日からの6日間、実際に職員の子どもたちに協力を仰ぎ、トライアル（実施実験）を行つた。場所は旧三愛病院である「有料老人ホームさんさん」の空きスペース、そして大分三愛メディカルセンターの新職員食堂「Pace」の一角。女性ドライバーが運転するタクシーでの送迎、高齢者や学生たちによる見守りや宿題確認、そして近隣の飲食店の協力のもと、みんなで楽しく卓を囲む昼食・夕食。

地域の団体や企業によるサポート・イベントも加わり、現場には関わるすべての人の笑顔が生まれた。



クラウドファンディングとは

インターネットを通して自分の活動や夢を発信することで、想いに共感した人や活動を応援したいと思ってくれる人から資金を募る仕組みです。

ネット操作が苦手という方には、直接ご寄付いただける手段もございます（下記をご参照ください）。



Project About

公開期間

10月2日(月)10時～11月30日(木)23時

三愛会の学童保育設立に向けての費用想定

- 高齢者も学生も、一緒に楽しく温かく見守り合える仕組み
- 安心して送迎できるための仕組み
- 温かで健康的な食事を提供できるための仕組み
- 子どもたちの安心安全のための仕組み
- 子どもたちが豊かに過ごせるための企画
- 職員の子どものみならず、地域の子どもたち・関係者をサポートするための仕組み



ご支援はこちから

ご支援は下記アドレスからお願いいたします。クレジットカードまたは、銀行振り込みでお申し込みいただけます。
病院に直接お持ち込みも可能です。（平日9:00～17:00）

[クラウドファンディングサイト](#)

<https://readyfor.jp/projects/san-ai>

大分三愛メディカルセンター レディーフォー

検索

連絡先：大分三愛メディカルセンター 地域連携センター TEL.097-542-7404



地域で支える、地域の学童をめざして

10月2日(月)～ クラウドファンディング開始

会医療法人三愛会 大分三愛メディカルセンターは、「地域で支える学童保育」を設立する当面の費用を募るために、クラウドファンディングサービス「READY FOR」にて、10月2日より300万円を目標に支援金を募集いたしました。

当院は大分市南西部の2次医療機関として、断らない医療をめざし、救急医療を中心に入院期医療からコロナ対応まで続けています。法人内12の介護機関や診療所、健診、訪問サービスなど事業所で、地域全体の健康を支えてきました。しかし、昨今の人材不足の波は当院にも押し寄せており、看護・介護の職員が不足し、地域の医療・介護を守る体制に不安の声も上がっています。

特に子育て世代が担う地域医療・介護において、その一助とすべく、「地域で支える学童保育」を企画しました。とはいっても、法人内看護師の不足による「地域の医療・介護を守る」という観点から「法人内学童設立」を思い立ちました。ゆくゆくは地域全体の子どもたちを見守れるような、そんな絵空事の実現に向かって進めております。

地域の健康を見守ってきた法人が新たに、地域の子どもたちの健康に関わってゆく。これこそ、本当の地域包括ケアにつながるものではと考えております。

こうした経緯と趣旨をご理解のうえ、ご支援を賜れば、夢の実現に近づくとともに大変光栄に存じます。何卒ご協力くださいま



社会医療法人 三愛会
理事長 三島 康典

心に人材不足は続いている。特に女性職員の多い我々の業界でも、「子どものために仕事を辞める」「活躍の機会が限定される」といったことが起きています。こういった時、いつも女性が犠牲を被る風潮にも疑問が残ります。そういう中で、地域の医療・介護を担う法人として何ができるか、という観点から「法人内学童設立」を思い立ちました。ゆくゆくは地域全体の子どもたちを見守れるような、そんな絵空事の実現に向かって進めております。

地域の健康を見守ってきた法人が新たに、地域の子どもたちの健康に関わってゆく。これこそ、本当の地域包括ケアにつながるものではと考えております。

こうした経緯と趣旨をご理解のうえ、ご支援を賜れば、夢の実現に近づくとともに大変光栄に存じます。何卒ご協力くださいま

だから地域のために。医療・介護のためにできることを。



[社会医療法人 三愛会]

大分三愛メディカルセンター

三愛総合健診センター

所在地	〒870-1151 大分県大分市大字市1213番地
TEL	097-541-1311
FAX	097-541-5218
病床数	190床
診療科	脳卒中センター、消化器病・内視鏡センター、運動器センター、救急外傷センター(ER)、人工透析センター、画像診断センター、リハビリテーションセンター、救急科・外科・消化器外科・心臓血管外科・呼吸器外科・乳腺外科・大腸肛門外科・脳神経外科・整形外科・泌尿器科(人工透析)・形成外科・内科・総合診療科・消化器内科・呼吸器内科・循環器内科・糖尿病内分泌内科・リウマチ科・神経内科・放射線科・リハビリテーション科・麻酔科
専門外来受付	8:15~12:00/13:30~16:00

※2023年4月より、午後の外来時間を変更しております。

※診療開始時間は診療科によって異なります。

休診日 日曜日・祝日・土曜日午後

※但し、救急・時間外診療は24時間体制です。

認定施設 二次救急指定病院、大分DMAT指定病院、DPC対象病院、日本医療機能評価機構認定病院

介護保険相談センター さんあい

(大分三愛メディカルセンター内)

TEL 097-542-7409

サービス 居宅介護支援、介護予防居宅介護支援

三愛訪問看護ステーション

(大分三愛メディカルセンター内)

TEL 097-541-7007

サービス 訪問看護、介護予防訪問看護

のつはる診療所

所在地	〒870-1203 大分市大字野津原906番地の1
TEL	097-588-1311
診療科目	外科・内科・整形外科・循環器内科・リハビリテーション科
病床数	19床
サービス	通所リハビリテーション(デイケア)、介護保険相談センター
HPアドレス	notsuharu-san-ai.com/

三愛呼吸器クリニック

所在地	〒870-1143 大分市田尻419-1
TEL	097-541-2588
診療科目	呼吸器内科・内科
サービス	呼吸リハビリテーション
HPアドレス	kokyu-oita.com

たばるクリニック

所在地	〒870-1154 大分市大字田原字深田936番地1の1
TEL	097-541-2345
診療科目	外科・内科・消化器外科・リハビリテーション科
サービス	訪問看護ステーション

介護老人保健施設 たばる

(たばるクリニック併設)

TEL	097-542-4139
サービス	入所サービス、短期入所療養介護(ショートステイ)、通所リハビリテーション(デイケア)

グループホームたばる

(たばるクリニック併設)

TEL	097-541-5298
サービス	入所サービス

庄内診療所

所在地	〒879-5421 由布市庄内町柿原280番地1
TEL	097-582-3600
FAX	097-582-3619
病床数	19床
診療科	内科・消化器内科・外科・消化器外科・整形外科・リハビリテーション科

介護老人保健施設 わさだケアセンター

所在地	〒870-1151 大分市大字市大坪11番地の2
TEL	097-541-6655
サービス	入所サービス、短期入所療養介護(ショートステイ)、通所リハビリテーション(デイケア)
HPアドレス	wasada-care-center.com ※アドレスを変更しています

有料老人ホーム さんさん

所在地	〒870-1151 大分市大字市566番地の3
TEL	097-529-5580
サービス	住宅型有料老人ホーム

さんあいヘルパーステーション

(有料老人ホームさんさん内)

TEL	097-529-5582
サービス	訪問介護、介護予防訪問介護

[社会福祉法人 三愛会]

特別養護老人ホーム そうだ藤の森

所在地	〒870-1123 大分市大字寒田202番地
TEL	097-567-8822

天領ガーデン・ふれあい館

所在地	〒870-1143 大分市大字田尻高尾783-1
TEL	097-578-7122

特別養護老人ホーム 天領ガーデン

(天領ガーデン・ふれあい館内)

TEL	097-574-7500
-----	--------------

今回の広報誌は、設立準備中た。この企画は本年3月末に具体的な構想が始まり、現在急ピッチで準備が進められています。すでに起きている多くの問題を、何故そこまで急ぐのか。それは、できるだけ早く解決したいがためです。人材不足のため、地域のため、医療・介護のため。もちろんそれはあるのですが、やはり一人一人の家庭のためであると思うのです。毎日、子どもは寂しい思いをしているかも知れない。危険にさらされているかも知れない。地域の高齢者は、より活躍の場を求めているかもしれない。やりたい事が続けられない。やれるはずなのに、と思つてくれているかもしれない。医療・介護機関は、人材不足によって「守れるはず」だった命を守れなくなるかもしれません。

今日、疲弊した女性スタッフが退職した。今日、患者を受け入れることができなかった。今日、一人寂しく過ごしていた。そんな現在進行形で起こっている問題を最優先で解決することが、前述しました「地域のため」「医療・介護のため」になるのだと考えています。三回の広報誌でお伝えしたこと、広報誌では他にもたくさんあります。その中で今回取り上げた問題は、すべての根幹である「働きひと」との問題でもあります。地域は、「ひと」で、できています。「ひと」で、向けていけるような社会を、今の三愛会は理想として追い求めています。

